

# — 20年間の成果と今後の課題 —

## 第20回品質工学研究発表大会紙面報告

6月28、29日の両日、東京都品川区のきゅりあん（品川区立総合区民会館）で、「品質工学の果たすべき役割を探る 20年間の成果と今後の課題」をテーマに学会創立20周年記念大会として研究発表大会が開催された。発表テーマ数は95件、参加者は731人。また学会の創始者であった田口玄一博士が6月に死去し、同氏の遺志を継ぐ、新たなスタートを切る大会となった。

## 発表テーマ数95件

### 学会の発展を振り返る

## 20年の大きな節目

何時つづれてもおかしくないと言われた品質工学（発足時は品質工学フォーラム）が、20周年を迎えた。まさに、創始者の田口玄一博士の力であり、さらにそれを支えた多くの会員の成果でもある。

発足当初は品質工学に取り組むことが大きな勇気が必要とされたことがあった。それが思いがけない大きな成果を生んで、多くの人が目を見張った。品質工学のその後、発展はめざましく、次

## 目に見えない効果の恐ろしさ

今回の大会では、元日産自動車の浜田和孝氏らが、20年の成果を財産目録としてまとめた研究論文として発表された。半

惜しくも6月2日、田口玄一博士が6年間の闘病生活の末に亡くなられた。我々の研究の多くが博士の考えに倣い、こまめに進められてきた。田口博士からはまだまだこの先があると言われている。この後を背負うのはすべて我々である。新しい成果を大きな力として示すことが必要

## やればできることがたくさんあるのに

世の中の多くの問題を

## 秋の大会に向けて新しい出発

現在、日本規格協会によって、田口玄一論説集「全4巻を刊行中である。これは1990年代からの田口博士の主張が結集されている文庫である。さらに今秋に開催される品質工学技術戦略研究発表大会では、田口博士の主張を都合よく解釈し利用する人がいまだに多い中、それにも向きつつ、何を、何が課題なのかを明らかにする研究に期待が集まっている。

品質工学学会 理事・名誉会員  
応用計測研究所 代表取締役

矢野 宏



品質工学を一言で言えば、評価の学問である。あるいは、評価していることが本当の評価になっているのかを、再度評価する。すなわち、「評価の学問である。それは、単純な正義などではない世界である。このような戦いは果てしない。品質工学を一言で言えば、評価の学問である。それは、単純な正義などではない世界である。このような戦いは果てしない。

## 志あるものが努力している

## 学会の地道な活動として

その一方で、退職後も自分の研究を継続し、研究発表を行っている人々も生まれている。ここに新しい人間像が生まれているのである。

## 世界の明日を、エンジニアリング。

IHIは「ものづくり技術」を中核としたエンジニアリング力によって、環境、エネルギー、産業・社会基盤など広範な分野で、地球規模のテーマから暮らしの身近な課題まで貢献しています。

### IHIグループ5つの事業領域

- 【資源・エネルギー】発電用ボイラ ○原子力機器 ○貯蔵プラント(LNG/LPG) ○ガスタービン発電設備 ○浮体式LNG設備など
- 【船舶・社会基盤・セキュリティ】橋梁 ○交通システム ○パーキングシステム ○シールド掘進機 ○プロセス・医療プラント ○防衛機器 ○商船・艦艇など
- 【産業機械・システム】物流システム ○運搬機械 ○製鉄機械 ○産業機械など
- 【回転・量産機械】車両過給機 ○圧縮機 ○船用過給機 ○船用ディーゼルエンジン ○小型ディーゼルエンジン ○農業機械など
- 【航空・宇宙】ジェットエンジン ○ロケットシステム

Explore the Engineering Edge

# IHI